

熱中症発症者や疑いのある者等の早期発見の方法、周知方法

熱中症対策ガイドラインの制定および展開

事例

大鉄工業の「熱中症対策ガイドライン」（骨子）

1. 現場における設備等

- ・休憩場所等の設置
- ・水分、塩分、ミネラル類が摂取できるものの備え置き
- ・WBGT測定器の備え置き
- ・熱中症発生時の報告を受ける元請けの担当者の指定及び周知
- ・熱中症発生時に被災者を救急隊に引き継ぐ場所の確認

2. 新規入場時の措置

- ・新規入場者への職長からの教育
- ・屋外作業に不慣れた作業員への配慮等
- ・熱中症発生時に元請けの担当者へ報告を行う、協力会社の担当者の指定

3. 朝礼時、点呼時

- ・職長による体調不良者有無の確認
- ・職長による当日の休憩サイクルの説明

4. 作業中

- ・職長による作業員の作業状況の観察、声掛けによる体調への気配り
- ・体調不良を申し出やすい雰囲気醸成
- ・職長は作業員に作業開始前に、ミネラル＋水分を摂取させること
- ・作業箇所毎のWBGT値の測定
- ・職長が状況に応じ休憩の時間やサイクルを変更し体調の保持を図らせる
- ・単独で作業している者への連絡を密にすること

5. 発生時の救急措置

- ・熱中症か否か不明な場合でも、救急車を呼び病院へ搬送すること
- ・救急車到着まで、体温を下げる措置を行うこと、一人にしないこと
- ・病院へは、必ず付き添い者を付けること

6. WBGT値の管理・活用

- ・WBGTの測定とWBGT値にあわせた、休憩サイクルの実施
- ・作業環境にあわせた、ハード対策の推奨

熱中症? 一人にしないですぐ119番

事前準備すること

①連絡 体調不良を認めた時の連絡体制と救急手配することを周知

②場所 休憩場所、休憩箇所（日陰含む）

③備品 スポーツドリンク、経口補水液、塩飴、対策キット等

④測定 WBGT値測定器

⑤確認 暑さに慣れていない人、病気等で暑さに弱い人、熱中症経験者

⑥教育 熱中症の原因と症状、現場の予防対策、発症時の措置等

点呼で確認

体調は？ しっかり寝た？ 朝食を食べたか？ 体調悪くなったらすぐに言ってね

作業中は声を掛け・気配り

①仲間同士で体調確認（大量の発汗、立ちくらみ、頭痛、シンドそう、等）（単独従事者（列車見張り等）には、連絡を密に）

②作業箇所毎のWBGT値を測定

③空調機、ミスト設置機など可能な限りハード対策

熱中症（体調不良）発症

①すぐ休ませる（物陰や涼しい場所へ）

②様態の急変に備えて必ず付き添う

③すぐ報告（職長や元請け社員へ）

④体調不良者の救護（身体冷却等）

⑤すぐ119救急搬送（必ず付き添い）

WBGT値	作業管理方法
危険 (31℃以上)	作業開始前に水分を補給 作業時間30分に1回以上涼しい場所で休憩と水分補給
厳重警戒 (28～31℃未満)	作業開始時に水分を補給 作業時間1時間1回以上涼しい場所で休憩と水分補給
注意 (25～28℃未満)	作業開始時に水分を補給 作業時間1時間30分に1回以上涼しい場所で休憩と水分補給
注意 (25℃未満)	作業時間2時間に1回以上涼しい場所で休憩と水分等を補給

大鉄工業株式会社 支店 作業所 出張所

(担当者) (連絡先 TEL) - -

概要

区分

建築

職種

全種

昨今の気温上昇による熱中症のリスクが高まっていることを受け、大鉄工業の施工における熱中症対策を強化している。危険度の判断に用いるWBGT値の理解、作業前の体調確認、声掛け・気配りの徹底、緊急時の対応手順などをわかりやすく整理した大鉄工業の「熱中症対策ガイドライン」を制定し展開している。あわせて、作業現場に「熱中症対策ガイドライン」を要約した周知ポスターを掲示し、現場で作業を行う作業員一人ひとりが主体的に熱中症予防に取り組めるように図っている。

効果

現場での「気づき」と「声掛け」が習慣化できており、特に、WBGT値を用いたリスク判断や休憩・水塩分補給の重要性を明確に示したことで、熱中症やその予兆に対して現場監督者や職長と作業員が同じ認識を持ち、体調が優れない場合に躊躇なく申し出やすい雰囲気が醸成され、熱中症の発生や重症化防止に寄与している。